

令和7年度 学校運営等に関する評価書

学校名	和歌山市立貴志小学校
作成日	令和 8年 3月 16日

1 教育目標

自ら考え、正しく判断し、進んで実践する力を身につけた人間性豊かな貴志の子供の育成をめざす

2 学校自己評価についてのご意見

	確かな学力の向上	豊かな心の育成	健やかな体の育成	地域とともにある学校
指標	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本の定着 児童主体の授業づくり 家庭学習の定着 全国学力調査で県平均正答率と同等にする。 授業が分かる(児童80%) 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳・人権学習の充実 いじめの早期発見・未然防止 読書活動の推進 学校が楽しい(児童80%) いじめの解消(児童100%) 図書の本を借りる(児童100%) 	<ul style="list-style-type: none"> 体力向上 基本的生活習慣の確立 危機回避能力の育成 積極的に運動に取り組んだ(教師90%) 朝ご飯を食べる(児童100%) 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭・地域との連携充実 地域資源の活用充実 中学校区における学校間連携の推進 学校の様子が伝わった(保護者90%) 地域の方をゲストティーチャーとして招いた授業を行う。
重点目標に対する意見	学習姿勢について、小学校の段階でつまづく今後取り戻すのが難しい。全児童にとって意義のある目標である。	最も大切な生きる力を育む道徳学習の充実を目標に掲げ取り組んでいるので自己肯定感をもてているように感じる。いじめの早期発見・早期対応が大切。	健康であることは決して当たり前のことではなく、子供の体力づくりを家庭だけでなく学校も後押ししてくれることは大変ありがたい。	退職年齢の引き上げや共働き家庭の増加により地域内のつながりは希薄になりつつあるが、それでも校区内や中学校区に家庭同士のつながりは、非常に心強い支えとなっている。
取組状況に対する意見	取り出し授業、のびっこタイム、放課後のびっこ、理科の体験学習など、負担の大きい取り組みだが、継続して取り組んでいることで結果が出てきているのではないかと感じる。	道徳や人権意識が日々の学びの積み重ねで育まれている。読書や道徳の授業を通して他者を尊重する力を学校全体で育もうとしている。道徳の授業を大切に意識が教員に浸透していると感じる。落ち着いて読書をする時間は大切。	健康づくりは学習や道徳に比べると後回しになりがちだが、良い取り組みを学校全体で進め、健康面の底上げに貢献してもらえたらありがたい。昼休憩など大勢の児童が屋外で活動的に過ごしているのは良い。	見守り活動やあいさつ運動、交通安全教室など地域の方々から支えていただく場面が多く、感謝を伝ええる「ありがとう集会」は意義ある取組だと感じる。登下校時児童と地域の方が挨拶を交わしている様子をよく見かける。
取組の適切さの検証結果に対する意見	国語力は全教科の基礎となるものなので、国語力の向上が他教科の成果にも表れているのではないかと感じる。授業が分かると回答している児童が約80%であるのは学校の取り組みに感謝。理科の成績が向上しているのは、児童の興味関心を引き出す工夫をしているからだと思う。	数値化は難しい取り組みだが、着実に意義ある実践がなされていると感じる。アンケートで児童の「友達と仲良くしている」保護者の「学校は命の大切さを教えている」の回答結果が高いのは良い。「地域のためにできることを考えている」という回答が、思っている以上に良い結果で嬉しい。	学年が上がるにつれ、「ぼけぼけ貯金」や「歯磨きカレンダー」の取り組みが形骸化しているように感じる。「朝食を毎日食べている」と回答していない児童が8%いる。家庭の問題となれば、目標の100%は難しいのではないかと感じる。	ありがとう集会は地域の方への感謝を形にする機会として有効である一方、子供たちから地域の方へのメッセージが一方通行である面も否定できない。学校が地域や保護者との関係を大切に考えていることが、子供にも伝わっていると感じた。
改善次年度に向けての意見	一斉授業と個別学習のバランスを保ちながら、今後も思考力の育成を期待する。支援員等の人員補強を希望する。平均解答率を下回っている算数についても、力を入れてほしい。県学習到達度調査の結果についても、保護者や学校運営協議会委員に周知してほしい。不登校児童のケアもお願いしたい。	道徳の研究指定校としての取り組み(研究授業や講演会等)についても話が聞けたら嬉しい。アンケート結果だけで判断するのではなく、対面の関わりの中で見取ることでできる教育を大切に取組んでもらいたい。いじめの未然防止は、学校だけでなく家庭・地域も含めて取り組んでいきたい。	高学年には、調べ学習等の機会を活用し、健康の大切さや健康意識を疎かにするおとのリスクについて理解を深めるなどのアプローチの仕方も検討してもらえないか。学校での取り組みを学校だよりや学年だより等で紹介してほしい。	昔遊び教室や地域インタビュー会、モルックなどの交流ゲーム大会、学校案内ツアーなど、子供たちと地域の方が互いにやり取りできる双方向の活動も取り入れることで、より深い交流につながるのではないかと感じる。ゲストティーチャーによる出前授業を増やしてほしい。中学校区にこだわらず、交流の範囲を広げてみても良いのではないかと感じる。

3 その他のご意見

保護者アンケートの結果から、親子の会話が不足しているのを感じる。学校だより等で親子で話し合ったり向き合う機会になったりする内容が載せられるとありがたい。学校や保護者など子供たちを支える側に負担がかかることを社会全体で共有していく必要があると感じる。行政には、金銭的なサポートだけでなく、支える側を支える視点の重要性や必要なサポートについて発信していただきたい。